

生活支援コーディネーターの取り組みをご紹介します!
～食を通じた地域の顔が見える関係づくり～
「農園野菜でとん汁を作ろう!」

生活支援コーディネーターは、子どもからお年寄りまで、障害のある方、認知症の方、子育て世代、介護者家族といったさまざまな人々がつながる機会を通して、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組んでいます。

2023年夏に行われた「ぬか漬け作り」に始まり、生活支援コーディネーター主催の食イベントは今回で4回目の開催となりました。職員を含め総勢26名が参加し、食を通してさまざまな地域の方々が交流できる恒例行事になりつつあります。

今回は「たまふれあいグループホーム 枳形」にて開催。参加者は、近隣にお住まいの方々、たまふれサポーターズや食生活改善推進員および多摩区ソーシャルデザインセンターなど地域ボランティアの皆様、地域カフェ・地域食堂の活動に関わっている皆

様、就労移行支援事業所「たまふれ!」のご利用者、「たまふれあいグループホーム 枳形」のご入居者、そして近くにいてだしの香りと楽しげな雰囲気誘われた「ナース&ケアハウス ふれあい」(看多機)のご利用者たち。

普段、周りのために頑張っている皆様に息抜きの時間を楽しんでいただきました。



「たまふれあいグループホーム 枳形」にてレンタルしている農園(通称:たまふれ農園)にて、たまふれあいグループホームのご入居者2名も「収穫班」入り、ボランティアさんと一緒に里芋を収穫。同じく収穫班の「たまふれ!」ご利用者は「畑に来るのが久しぶり!」と張り切ってスコップを握っていました。



コミュニティカフェSaha、食生活改善推進員の方が「調理班」を担当しました。さすがの包丁さばきで、あっという間に下ごしらえを完了。収穫班が戻ってきた後に、みんなで浅漬けとおにぎりを作りました。



食事をいただきながら、多摩区役所の管理栄養士さんのお話を耳を傾けました。「具たくさんにすると野菜から甘みが出て、お味噌を控えめにできるので減塩につながります」とのことでした。

初対面の方同士も協力して、生活支援コーディネーターからの「けがなく・たのしく・おいしく」との声掛け通り、和気あいあいとあたたかい雰囲気包まれた、笑顔あふれるイベントでした。

第5回多職種連携感謝セミナー
収録の様子をご紹介します!

日頃より連携いただいている皆様へ、たまふれあいグループから感謝の気持ちを込めて今年も「多職種連携感謝セミナー」をオンデマンドで配信中です。収録当日の様子をお届けします。

車いすアスリート・金メダリスト
土田 和歌子 さん

講演 「今を受け入れ、今を越える!」

冬季2回、夏季7回の
パラリンピックに出場!

2008年の北京パラリンピックでは、5000mのレース中に転倒し骨折。2カ月の入院生活で病室から見たホスピス病棟と、その後移動した産科病棟で、死と生を間近に感じた語る土田さん。苦難を乗り越え、コロナ禍に行われた東京オリンピックでは聖火ランナーとして希望の灯をつなぎました。人生のあらゆる波乱も、前向きに生きる力に変えてきた土田さんの熱い想いに、会場は感動に包まれます。

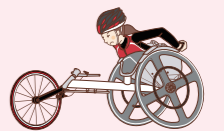
講演会の最後に、土田さんから「逆境に耐えて咲く花こそ美しい」というハスの花言葉のメッセージを皆様へ贈っていただきました。

講師 土田和歌子氏



【土田和歌子氏 プロフィール】

1974年、東京都生まれ。株式会社ウィルレイズ所属。高校2年生のときに交通事故に遭い車いす生活となる。アイススレッジスピードレースの選手となり、1998年、長野パラリンピック日本代表として金メダル2個、銀メダル2個を獲得。その後パラ陸上競技に転向し、2004年のアテネパラリンピックでは、5000mで金メダル、マラソンで銀メダルを獲得。日本人史上初の夏・冬パラリンピック金メダリストとなる。2024年パリパラリンピックでは、マラソン種目にて6位入賞。



講演会の様子をピックアップ

試合で使用するレーサーを披露 /



競技の際に使用するレーサーを見せていただきました。選手の体の大きさに合わせて作られています

質疑応答も和やかなムードで /



職員からの質問にも気さくに答え、フレンドリーで笑顔がとてすてきな土田さん

実際に東京オリンピックで使われたトーチを持ってきていただきました!

本物の金メダルを目にする貴重な機会でした

第5回多職種連携感謝セミナー 動画配信中!

配信終了間近 2025年2月16日まで

お申し込みは右記
二次元コードから!

※申し込みの自動返信メールに記載の動画URLからYouTubeにて動画をご視聴いただけます。





「たまフレ!」
就労支援
さいとう ゆか
齋藤 由加さん

たまフレ!

齋藤さんは、15年間の専業主婦生活を経て、手に職をつけるためにヘルパー資格を取得。グループホームで3年、訪問ヘルパーで4年勤務後、介護福祉士の資格を取得しました。三男が自閉症と軽度の知的障害を抱えている中、福祉の支援を受けずに進学・就職を目指していましたが、福祉に関する情報が得られにくく、支援を受けづらいという課題があったそう。そこから、障害者支援の仕事にも関心を抱くようになりました。

そんな中、三男の進路を考えるときに見学した「たまフレ!」が求人を出していることを知り、念願の福祉職への転職が実現しました。

入社して1年半が経ち「ご利用者さんに伝えるべきことは、たとえぶつかっても諦めずに伝えることが大切」という考えに変わったと言います。一人ひとりの個性を尊重しつつ、必要なことはしっかり話せるようになりました。

また、仕事の中ではご利用者さんとぶつかり合うこともありますがお互いに折り合いをつけながら信頼関係を築いていきたいと語ります。

「ご利用者さんにとって私は親であり、上司であり、同僚のような存在。その立場を意識しながら接しています」と齋藤さん。社会人として生活をするために大切なことを熱心に伝えています。

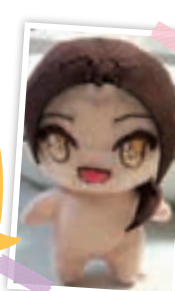
就労継続支援B型では、たまふれあいグループの職員のユニフォームの洗濯や車の洗車、介護施設にお届けするお米の精米作業を請け負っており「縁の下の力持ちとしての仕事が、ご利用者さんの働く自信につながれば」と話します。そんな齋藤さんの活躍に、今後ぜひご期待ください。

入職して1年半が経ち「ご利用者さんに伝えるべきことは、たとえぶつかっても諦めずに伝えることが大切」という考えに変わったと言います。一人ひとりの個性を尊重しつつ、必要なことはしっかり話せるようになりました。

精米用の米袋を使ったお正月飾りです。工作は昔から好きです



娘とワイワイ言いながら、一緒に人形も作っています。



コロナ禍で家に閉じこもり気味になった娘が、好きな絵をたくさん描いて才能が開花!



たまふれあいグループ
Tama Fureai Group

ご相談は下記の地域相談室までお電話ください

044-931-0220

たまふれあいクリニック
訪問診療/専門外来/
訪問リハビリテーション

たまふれあい
訪問看護ステーション

たまふれあい
居宅介護支援事業所

たまふれあい
介護と住まいの相談センター

たまふれあいグループホーム 枳形
ナース&ケアハウス ふれあい
(看護小規模多機能型居宅介護)
たまふれあいグループホーム 登戸新町

デイサービス ふれあい

たまフレ!
就労継続支援B型/就労移行支援/就労定着支援/
生活訓練/計画相談支援

たまふれあいの森
(まちの保健室・セミナー)



たまふれあいグループ
ホームページ

<https://tama-fureai.com/>



たまふれあいグループ
資料請求・ご相談
お問い合わせフォーム

<https://tama-fureai.com/contact/>



アンケート回答で
抽選5名様(隔月)に
プレゼント進呈!

ふれあい通信へのご感想やたまふれあいグループのサービスに関するご意見をぜひお寄せください!